

学校経営理念	児童にとって「学びたい学校」、教職員にとって「働きがいのある学校」、保護者や地域にとって「応援したい学校」づくりを推進する。
	<目指す学校像> ○確かな学力を育む学校 ○校風・伝統を大切に、気持ちのよい挨拶が交わされる爽やかな学校 ○清掃が行き届いた清潔で美しい学校 ○保護者・地域の人たちから信頼される学校 <目指す児童像> 【知】伝え合い、学び合う子…進んで学び、深く考え、行動できる 【徳】思いやりのある子…自他のよさを認め、互いに協力し合って豊かに生きていく 【体】健やかな子…忍耐強く、健康な心と体をもつ <目指す教師像> ○心身共に健康で、児童に寄り添い、児童と共に前向きに歩む教師 ○豊かな人間性をもち、使命感にあふれた教師 ○確かな学力を身に付けさせるため、創意と工夫を凝らした授業を創造できる教師 ○広い視野と展望をもち、保護者や地域の人たちと積極的に関わることができる教師

	中期経営目標	短期経営目標(評価項目)	自己評価		学校関係者評価		改善策等	
			達成状況	評価	考察	評価		
I 豊かな心の育成	(1)自己肯定感の育成や人間関係づくりを図る	①Q-Uを実施し学級集団の状態を的確に把握し、よりよい学級集団づくりを進める。 ○1回目より2回目の数値を改善 ○不満足群全学級で5%以下 ○新規不登校0名	学級生活満足群の割合は、11学級中8学級で改善、1学級が現状維持、2学級が1学期よりも数値が下がっているものの87%と高い数値である。学校全体でも85.8%の児童が学級生活満足群となっている。新規不登校も、一時期登校しふりはあったが、3学期段階では0名である。 一方不満足群の割合は、全学級で改善あるいは現状維持となっており、学校全体で不満足群の割合は、4%程度(不登校児童を含む)で目標値を達成した。児童間の暴力行為や学級崩壊等の大きな荒れはなく、生徒指導の三機能を生かした学級づくりができています。	A	居心地のよい学級(学校)づくり、学級集団づくりができています。Q-Uの学級満足群の割合が高く、学級不満足群の割合も昨年度より改善(6.1%→4%)してきており、全国平均よりも低い割合である。今後も、Q-U等を用いて学級集団の状態を的確に把握し、個々の児童の気持ちや特性等にに応じた対応をお願いしたい。主体的な学びや活動につながるよう、実効性のある取組を心がけてもらいたい。	A	中期経営目標(1)を達成するために、安心・安全な学級(学級)づくりを進める。一人一人の児童の個性や多様性を認め合いながら授業や諸活動に取り組み、安心して学校生活が送れるような風土を児童とともに創り上げる。そのために、「自己存在感の感受」「共感的な人間関係の育成」「自己決定の場の提供」を大切に学級・授業づくりを、全教職員で共通理解して、実践する。 短期経営目標①については、来年度より調査方法が、Q-Uからi-checkに移行する。学級における「個人の心の安全」の状態がEグループ(自己肯定感が低く、人間関係に悩みを抱えている可能性がある)0名を目指し、居心地のよい学級づくりに努める。②については、道徳教育推進教師を中心とした校内研修や授業を充実させるとともに、家庭への啓発も行う。③については、縦割り班活動や集会活動など計画的に実施する。ふわふわことばを増やし、チクタクことばを減らす(なくす)取組を、全学級で、通年で計画的に取り組むようにする。④については、いじめが不登校等の原因とならないよう、日頃からの人権教育や発達支持的生徒指導等を充実させる。 本年度も新型コロナウイルス感染拡大防止対応のため、児童の不安やストレスもあったと想定されるが、肯定的評価(強肯定)が高い割合を維持している。来年度以降は、感染症対応も見直され、日常の学校生活が過ごせるようになり、人との関わりも多くなることが予想される。差別や偏見、いじめを許さない人権教育・道徳教育、生徒指導等の充実を図っていく。	
		②道徳教育を充実させる。(授業研究・道徳意識調査) ○道徳意識調査で、「自分にはよいところがあると思う」肯定的評価90%以上(強肯定70%以上) 「頑張りたいことや目標をもっている」肯定的評価90%以上(強肯定70%以上)	各学級で道徳の授業は計画的に実施できている。道徳意識調査の「自分にはよいところがあると思う」肯定的評価91.5%(前年比+4.9%)、強肯定62.8%(+0.6%)で、強肯定のみ目標値を達成できなかった。「頑張りたいことや目標をもっている」91.9%(+0.7%)、強肯定73.3%(+1.5%)で、目標値を達成した。	A	強肯定の数値が、目標値に達していないものもあるが、肯定的評価の数値は前年度よりも改善してきている。今後も、道徳の授業改善や自己肯定感(自尊感情等)を高める取組を、家庭や地域と連携して行うようにしてもらいたい。	A		
		③人権教育を基盤とした「仲間づくり」に取り組む。(縦割り班活動の充実やことばを大切にすること(顔色など)など) ○縦割り班活動の充実(縦割り班活動の回数を昨年度以上実施) ○「ふわふわ言葉・チクタク言葉」の取組を実施し、「ふわふわ言葉」を使っている肯定的評価90%以上(強肯定70%以上)、「ちくちく言葉」を使っている肯定的評価90%以上(強肯定70%以上)	縦割り班は、新型コロナ感染拡大状況をみながら継続実施することができた。縦割りレクや全校発表も、朝の集会や体育レク、卒業生を送る会などを実施することができた。「ふわふわ言葉を使っている」肯定的評価95.1%(強肯定67.5%)、「ちくちく言葉を使っている」94.2%(強肯定70.8%)と、ほぼ目標値を達成できた。友達を大切にすることを意識している児童が増え、学校全体が落ち着いている。	A	今年も感染拡大状況に応じた縦割り班活動や集会活動ができています。児童一人一人の頑張りを成長の過程を、教師も友達も褒めることの継続により、周りの人を認めることにつながっていると感じる。ふわふわ言葉を増やし、チクタク言葉をなくす取組をお願いしたい。	A		
		④学校生活アンケート(いじめ調査)を実施し、指導に生かす。 ○学校生活アンケート「学校生活が楽しい」肯定的評価90%以上(強肯定70%以上)、「いじめはどんなことがあってもいけない」肯定的評価100%	いじめ調査は、年間3回実施し、日頃の取組を検証して指導に生かすことができた。「学校生活が楽しい」肯定的評価92.1%(強肯定73.9%)、「いじめはどんなことがあってもいけない」肯定的評価98%(強肯定95.3%)と、いじめのみ目標値を達成できなかった。いじめによる重大事案の発生0件。	B	「学校生活が楽しい」と答えた児童の割合は目標値を達成しているが、「いじめはどんなことがあってもいけない」は達成できていない。「いじめは絶対にダメ」という認識をもたせてほしい。今後も日常的にいじめの未然防止や早期発見・対応をお願いしたい。	B		
	(2)読書活動の充実を図る	①朝の読書、読み聞かせ、図書館を利用した授業を実施し、読書好きの児童を育てる。 ○一人あたりの図書貸し出し冊数 月平均:低学年15冊、中学年10冊、高学年8冊以上	一人あたりの図書貸出冊数、月平均月平均:低学年14冊、中学年6冊、高学年9冊と、高学年以外は目標冊数を下回っているが、読書の習慣が身に付いている児童は多い。中学年や貸し出し冊数の少ない学級もあり、児童への声かけや支援等が必要である。	B	目標値に達したのは高学年だけで、中学年の平均読書冊数が、高学年を下回っている。外遊びが大好きな中学年と思われるが、心を耕す読書の習慣化に取り組んでほしい。朝の読書活動や選書会等を継続し、多くの良書に出会い、読書の楽しさを味わえるようにお願いしたい。	B	図書担当と図書支援員を中心として、読書活動(朝読、読み聞かせ、読書指導等)の充実や図書館(蔵書、レイアウト等)の整備など、読書環境の充実を図る。学級による貸し出し冊数が少ないよう、学年・学校ぐるみで、新たに読書週間を設けたり、学級に良書を展示したりするなどの工夫をすようにお願いしたい。	
		(3)基本的な生活習慣や規範意識の定着に努める	①生活リズムの点検に取り組み、生活リズムの改善を意識させる。 ○生活点検の朝起き時刻(全学年:6時半) 全校平均80%以上朝食を食べている、全校平均95%以上	生活点検の朝起き時刻(全学年6時半)が、4日以上守れた児童の割合は、71.8%で目標値を達成することができなかった。1・2年生が65%程度、3・5年生が70%程度、4・6年生が80%程度の達成率となっている。「朝食を食べている」割合は、97.7%で、目標値を達成することができた。	B	家庭の協力がなければ目標値の達成が難しいので、家庭への啓発(早起きや朝食の効果等)についても継続して取り組んでほしい。朝食は、食べてきている児童の割合が目標値を達成している。質のよい睡眠と朝食は、一日を活動的に過ごすための大事なスイッチなので、今後も家庭と連携して取り組んでほしい。	B	保護者向け学校評価アンケート結果から、社会のルールやまきまりを守る指導に力を入れてほしいという要望は、最上位を占めている。中期経営目標(3)を達成するためには、家庭への啓発と連携が不可欠であり、保護者や地域とも連携を図りながら取り組んでいく。 短期経営目標①については、質のよい睡眠と朝食の重要性について、学期始めには必ず児童と家庭に啓発し、改善を図る。保護者向けの講演会なども計画する。②については、野市中学校区の重点取組の1つでもある「チャイム席・掃除と挨拶の励行」を、来年度も継続実施する。名前の呼びかけについても、チクタクことばを減らすために継続する。③については、教師主導でなく、児童の自律心が育つような取組を、児童主体で進める。 今後も、非認知能力(自分に関する力・人と関わる力)の安定と向上のため、生活リズムを整え、まきまりや時間を守り、あいさつや清掃のできる児童を、学校と家庭・地域と共に育てていく。
			②時間を守り、あいさつや清掃のできる児童を育てる。 ○時・場・礼アンケート「チャイム席を守っている」肯定的評価90%以上(強肯定70%以上)、「無言ですみずみまで掃除ができてい」肯定的評価90%以上(強肯定70%以上)、「朝や帰りの挨拶や、返事ができる」肯定的評価90%以上(強肯定70%以上)、「呼びかけせずに『さん、くん』付けで名前を呼んでいる」肯定的評価90%以上(強肯定60%以上)	「チャイム席を守っている」肯定的評価96.7%(強肯定67.5%)、「無言ですみずみまで掃除ができてい」97.5%(強肯定77.7%)、「朝や帰りの挨拶や、返事ができる」97.1%(強肯定67.7%)、「呼びかけせずに名前を呼んでいる」87.2%(強肯定33.3%)であった。「呼びかけ」の強肯定の割合が低いのが、授業中はさん付けで名前を呼んでいる。野市中学校区の取組が浸透してきている。	B	強肯定が目標値に達していない項目もあるが、全ての項目でよくできている。日常の学校や地域での様子を見ても、元気に仲良く遊ぶ姿がよく見られ、笑顔で気持ちのよい挨拶ができています。野市中学校の取組が、浸透している。	A	
			③くらしのきまり(学校・夏冬休み)を遵守する児童を育てる。 ○道徳意識調査「学校のきまりを守っている」肯定的評価90%以上(強肯定70%以上)	「学校のきまりをまもっている」肯定的評価96.4%(強肯定70%)と、目標値を達成した。きまりは守ろうという意識も高い。校内での問題行動(暴力行為等)は発生していない。	A	学校のきまりがよく守られており、いつ学校を訪問しても、全体が落ち着いている。上級生の落ち着いた姿を見て、下級生もおのずと身に付けてきていると感じる。	A	

【評価基準】A:十分満足 B:おおむね満足 C:もう少し努力すべき D:大いに努力が必要

	中期経営目標	短期経営目標(評価項目)	自己評価		学校関係者評価		改善策等		
			達成状況	評価	考察	評価			
Ⅱ 学力の向上	(1)子どもたちが自ら考え表現でき、伝え合い、学び合いのある授業の創造を図る	①児童の考えや表現を大切に伝え合い、学び合いのある授業を行う。(東小学校授業スタンダードの実施) ○学校生活アンケートで、「授業がわかる」肯定的評価90%以上(強肯定73%以上)、「授業に主体的に取り組んでいる」肯定的評価90%以上(強肯定73%以上)。 ②教科等の学習で、ICTを活用した授業や校内研修を充実させる。 ○低・中・高ブロックに別に研究授業を行う。 ○ICT(児童用タブレットPC、電子黒板等)活用に関する研修を深め、授業改善につなげる。 ○教職員が積極的に他校の研究発表会に行けるような環境を整える。	伝え合い、学び合いのある授業を意識して実践が進められている。「授業がわかる」の設問で、肯定的評価94.1%(強肯定64.4%)、「授業に主体的に取り組んでいる」は94.5%(強肯定69.2%)で、肯定的評価は目標値を達成している。「みんなで何かをするのは楽しい」は97.6%(強肯定85%)の児童が回答しており、授業や諸活動に意欲的に取り組む姿が見られる。	B	全校研やブロック研の実施など、組織的に授業研究が進められ、授業改善や主体的に学ぶ児童が育成されていると感じる。「授業が分かる」「授業に主体的に取り組んでいる」の強肯定70%以上を目指して、「伝え合い、学び合いのある授業」の継続をお願いしたい。	A	中期経営目標(1)を達成するために、全校研やブロック研、ICT活用研修などを実施し、対話的で深い学びのある授業改善に組織的に取り組む。短期経営目標①については、各教科の授業で、「思考力・判断力・表現力」、「見方・考え方」の育成を目指した授業展開(あめ・発問・ゴール・振り返り・習熟等)を、さらに追究していく。「授業が分かる」「授業に主体的に取り組んでいる」の強肯定70%以上を目指す。 ②については、GIGAスクール構想実現に向けて、児童及び教員のICT活用能力向上を図る。児童については、学年が上がるにつれてタイピング技術の向上を図るとともに、AIドリル等を活用して個別最適な学びを保障する。教員については、ICTを個別学習や協働学習のツールとして活用し、実効性のある活用事例の共有を図る。		
	(2)子どもたちの基礎学力の定着と、学力の向上を図る	①これまでの全国学力・学習状況調査、標準学力調査の結果を分析し、日々の授業改善に生かす。 ○標準学力調査において、全学年全国平均を上回る。正答率30%以下の児童0名 ○全国学力定着状況調査で、算数・国語ともに全国平均を上回る。正答率30%以下の児童0名(6年) ○高知県学力定着状況調査で、算数・国語ともに県平均を上回る。正答率30%以下の児童0名(4・5年) ②基礎基本の確実な定着を図り、個別の支援を行う。 ○TT体制で指導にあたる。 ○朝のウォーミングアップ・放課後パワーアップ教室を充実させる。特に朝のウォーミングアップを地域の方にも手伝ってもらい、基礎基本の徹底を行う。 ③特別支援教育に全校体制で取り組む。 ○定期的(月1回以上)に校内支援会を開催する。 ○SCやSSW、特別支援教育巡回アドバイザー等との連携を密に取り、チームで課題解決にあたる。	4月の標準学力調査(2~4年生対象)では、4年生以上は国語・算数ともに全国平均を上回っていた。他の学年は少し下回る結果で、3年国語に課題があった。また、正答率30%以下の児童は、国語・算数ともに3名ずついた。また、同月に実施された全国学力・学習状況調査(6年生対象)の結果は、国語・算数ともに全国平均を上回ったが、正答率30%以下の児童は、国語で1名、算数で2名いた。これらの結果を踏まえ、個に応じた指導と支援の充実を図り、授業改善や宿題の工夫等に努めた。 高知県学力定着状況調査(4・5年生対象)の結果も、国語・算数ともに全国・県平均を大きく上回り、理科も全国平均並みであった。評定1の児童の割合も20%を切り、正答率30%以下の児童も0名であった。これまでの学力の二極化解消の取組が、学年が上がるにつれて成果が見られる。	B	各種学力調査の結果から、着実に成果が上がってきていることが分かる。評定1の児童の学力向上や学力の二極化解消のため、個の課題に応じた指導と支援が充実していると感じる。Iの項目のアンケート結果や、II-(1)-(1)-①アンケート結果からも、基礎学力の定着はもちろんのこと、思考・判断・表現力の向上も期待したい。今後も、一人の教員に任せず、組織的に学力向上に取り組んでほしい。	A	中期経営目標(2)については、これまでの取組の成果が表れてきているが、認知能力(学力)のさらなる向上を目指している。来年度も、県指定の授業づくり講座「算数」の拠点校となる。ICTを活用した数学的活動の充実、数学的な見方・考え方を働かせる授業づくりを進める。 短期経営目標①については、4月の全国学力学習状況調査と5月の標準学力調査の結果を踏まえて、一人一人の児童の課題を把握し、全校級で授業改善と個々の課題改善に取り組む。各種学力調査全国平均以上、正答率が30%以下の児童0名を目標値とする。5年生以上については、全国平均5ポイント以上を目指す。 ②については、加配教員と生活・学習支援員、保護者・地域ボランティアを有効に活用し、基礎学力の定着と向上を図る。算数だけでなく国語の加配指導も検討する。 ③については、これまで通り年度初めから計画的に校内支援会を開き、一人一人の児童の課題に応じた指導と支援を、保護者や教育関係諸機関、医療機関、福祉事務所とも共通理解し、共通行動がとれるようにしていく。		
	(3)家庭学習の習慣化を図る	①家庭と連携し、家庭学習が習慣化されていない児童について、家庭学習の支援を行う。 ○生活点検で家庭学習を「しない」の数値を全学年平均2%以下にする。 ②参観日、運動会などの学校行事を、新型コロナウイルス感染拡大防止対策を図りながら実施する。 ○懇談会の内容は事前に保護者に伝える。	家庭学習を全くしていない児童は0名である。宿題忘れについては少しあるものの、家庭学習の習慣化はほぼ定着している。目標値は達成することができた。個の特性や学習理解状況に応じた価値の量や質などを見極め、個別最適な学びを保障していく必要がある。	B	朝学習の丸付けの際、意欲的に算数の問題に取り組む児童が多いと感じている。朝・放課後の加配指導等が、児童の基礎学力定着の一助となっている。来年度も、県費負担の加配教員や、市の学習・生活支援員の配置を要望する。	B	家庭とも連携しながら家庭学習の習慣化を図る。課題のある児童については、今後も一人一人の児童に応じた家庭学習の質や量に配慮し、児童用タブレットの持ち帰りも取り組む。		
Ⅲ 学校への信頼	(1)保護者や地域との連携を密にし、信頼される開かれた学校づくりの推進	①保護者や地域に対して学校通信等により学校情報を積極的に発信する。 ○学校通信「三宝」を、月に1回以上、校長通信「ひがし」を月2回以上のペースで発行する。 ○学校Webページを適宜更新する。 ○学校評価書を公開する。 ②参観日、運動会などの学校行事を、新型コロナウイルス感染拡大防止対策を図りながら実施する。 ○懇談会の内容は事前に保護者に伝える。 ③児童にとって安全で安心できる学校づくりを行う。 ○学期ごとに安全点検を行う。 ○避難訓練を年間3回以上行う。 ④保護者や地域の方々の学校支援の充実を図る。 ○コミュニティスクール、地域学校協働本部事業を計画的に推進し、学校・家庭・地域が連携し、地域住民の参画による学校運営を推進する。 ○新型コロナウイルス感染拡大防止対策を図りながら、ボランティア活動を推進する。	学校通信は月1回、校長通信は月3回のペースで発行できた。学校Webページについても、週1回のペースで更新している。学校生活アンケートで、「学校(先生)が情報提供できているか」の設問の肯定的意見は80.5%と、昨年より4.1%低下した。学年通信は月に1回は発行できているが、学級通信を定期的に発行できていない学級もある。学校評価書については、計画書(公開済み)と報告書を公開する予定である。 4月の参観日(PTA総会)と12月の持久走大会は、新型コロナウイルス感染拡大のため中止となったが、その他の参観日(参観授業・学年懇談)や学校行事、学校行事や体験学習等については、感染予防対策を図りながらほぼ実施することができた。学年懇談の内容については、各学年がお便りや、家庭に周知することができた。	C	学校からのお便りにより、学校での児童の様子や成長がよく分かる。学級便りの発行については、定期的に発行してほしいが、学級により発行回数に差がないようにしてもらいたい。今後も、学級(学校)の授業や行事等の様子が伝わる情報発信をお願いしたい。	B	中止となった行事もあるが、感染拡大防止対策を図りながら、ほとんどの行事等を実施できている。来年度以降、感染症対応も見直される。可能な限り平常通りの学校行事等を行い、参観日については、参観週間なども検討してもらいたい。	B	中期経営目標(1)については、本校の様々な教育活動を円滑に実施するため、保護者や地域の方々からの理解と支援は不可欠である。地域から信頼され開かれた安心・安全な学校づくりのため、コミュニティスクールや地域学校協働本部事業をこれまで通り推進する。 短期経営目標①については、学校(学級)の取組や児童の成長の様子が伝わる情報発信に努めていく。学年便りや学級便りについても、学年・学級差がないよう定期的な発行に努める。 ②については、来年度以降、新型コロナウイルス感染拡大防止対応も見直されることが想定される。参観日や集会、学校行事等を計画的に実施する。参観週間についても、検討する。 ③については、不審者・不審メール等対応訓練も実施し、マンネリでない実効性のある避難訓練や災害・安全対策を実施する。危険・危機予知トレーニングについても、児童だけでなく教職員も実施する。 ④については、保護者や地域の新たな人材(ボランティア)を確保し、保幼小と保護者、地域の人々が連携して、活動の充実を図っていく。小学生と東保育所・東幼稚園児との交流も、年間を通してPDCAサイクルで行っていく。また、教員の保幼小連絡会も適宜実施し、連携を深める。
			安全点検は計画通り実施し、事後対応も行った。避難訓練も、新型コロナウイルス感染拡大防止を図りながら、保幼小合同で行うことができた。また、夏期休業中に教職員対象の不審者対応訓練も実施することができた。緊急連絡(学級閉鎖等)やコロナ対応のお知らせなど、一斉メールやWebページにて、迅速に保護者に伝えることができた。	B	定期的な安全点検や避難訓練等を実施できている。コロナ対応や、不審者・不審メール対応も、適切にできている。保護者向け学校評価のアンケート結果からも、学校の安全・危機対応への要望が多いことから、マンネリ化とならないよう取り組んでもらいたい。	B			
				コミュニティスクールや地域学校協働本部の取組は、新型コロナウイルス感染拡大防止を図りながら計画的に行われた。朝の丸付けや読み聞かせ、授業や学校行事等への支援など、制限もありながら実施することができた。	B	学校運営協議会や地域学校協働本部事業は、協働的・計画的に実施できている。地域と共にある学校づくりが進んでいる。1・2年生らと東保育所・東幼稚園の園児との合同焼きも体験は非常に良かった。今後も、可能な範囲で学校支援を充実させていきたい。	A		

【評価基準】A:十分満足 B:おおむね満足 C:もう少し努力すべき D:大いに努力が必要